

— 国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業） —

構想名 『学際性・国際性に秀で、体育、芸術分野を持つ総合大学としての独自性を活かし、絶えず新たな学問分野を切り拓く研究大学の実現を目指した経営改革の加速化』

組織改革によるインパクト

本事業実施前の状況、取組、課題など

【課題】（取組①に関連）
学際的融合的研究体制がプロジェクトベースにとどまり、研究拠点性が脆弱

- <従前の取組>
- ◆ 従来の枠組みを超えた学際横断型研究を推進するために「研究センター再編計画」を策定[H28]
 - ◆ 再編計画に基づき学内の研究センターを4つの級に類型化し、5つのセンターを再編[H29]

【課題】（取組②に関連）
大学スポーツの健全化と最大化に取り組み、大学スポーツを改革

- <従前の取組>
- ◆ スポーツイノベーション開発研究センターを設立し、アスレチックデパートメント設置・推進に必要な開発研究を実施[H29～]
 - ◆ 国立大学で初めてアスレチックデパートメントを設置[H30]

本事業で実施した取組の内容、方法、達成状況など

【取組①】
本事業により研究のステージに応じた効果的な研究推進体制「研究循環システム」を構築し、研究全体の新陳代謝を活性化

- 5年を1サイクルとする級別分類の評価システムを確立（3年目に中間評価）
- 本システムの評価により、ヒト、モノ、カネ、スペース等の研究資源を戦略的に配分

【取組②】
本事業によりアスレティックトレーナーやスポーツアドミニストレーターを採用し、大学スポーツマネジメントの体制を整備

- 学生の社会的な成長に寄与するプログラム（地域の運動部活動支援等）の開発・実践
- Well-Beingの測定・評価に基づく学生アスリートの支援
- 現在までに12の企業および団体がADとパートナーシップ合意を締結

本事業実施後の大学ガバナンスの変化など

- 研究循環システムの枠組みの中で、世界最高水準の拠点形成を推進する体制として、「世界展開研究拠点形成機構」を整備した。
- 学長直下の競技スポーツ統括組織としてアスレチックデパートメントを設置し、大学が部活動を正式な教育活動として支援する体制を構築した。

大学改革の成果

世界最高水準の研究拠点形成の推進

大学スポーツ改革の推進

— 国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業） —

構想名 『学際性・国際性に秀で、体育、芸術分野を持つ総合大学としての独自性を活かし、絶えず新たな学問分野を切り拓く研究大学の実現を目指した経営改革の加速化』

経営基盤強化の体制整備

本事業実施前の状況、取組、課題など

【課題】（取組④に関連）
 教員の戦略的配置を拡充・加速化し、大学の経営戦略に応じた組織改革・分野強化の取組を強化

- <従前の取組>
- ◆ 教員数の管理方法を「枠」から「ポイント」へ変更 [H27~]
 - ◆ 各部局へ配分したポイントの削減および抛却 [H28~R3]
 - ◆ 削減・抛却したポイントを活用し、「全学戦略ポイント」「戦略的分野拡充ポイント」を実施 [H28~]

【課題】（取組⑤に関連）
 多様な財源確保のための寄附金（基金）獲得体制強化

- <従前の取組>
- ◆ 国立大学で最初にクラウドファンディング事業者との専属オフィシャル契約を締結 [H28~]
 - ◆ 外部人材2名をファンドレイザーとして採用 [H29~]

本事業で実施した取組の内容、方法、達成状況など

【取組④】
 従前からの取組を本事業により加速したことに加え、以下のポイントを新設し、人件費の単純な増加を抑制しつつ、若手教員の採用・研究力強化を促進

- 循環型戦略管理ポイント：若手教員の採用促進・研究力強化を対象（配分期間を最長2年間に限定し、人件費の増加を抑制）

【取組⑤】
 本事業によりファンドレイザーを3名採用して5名体制とし、寄附金(基金)獲得体制を強化

- 基金獲得のためのスマートフォン・アプリの運用開始
- コロナ禍で困窮した学生への総量約30トンの食料支援

本事業実施後の大学ガバナンスの変化など

- 人件費の単純な増加を伴わない、戦略的な人的資源配分体制を構築した。
- SNS等を活用した、研究内容や知財関連の情報を兼ね備えた渉外活動の実施による、産学連携事業の橋渡し体制が構築された。

大学改革の成果

限られた資源での戦略的な人的資源体制の構築

寄附金(基金)獲得体制およびブランディングの強化

— 国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業） —

構想名 『学際性・国際性に秀で、体育、芸術分野を持つ総合大学としての独自性を活かし、絶えず新たな学問分野を切り拓く研究大学の実現を目指した経営改革の加速化』

学内資源の戦略的配分

本事業実施前の状況、取組、課題など

【課題】（取組①に関連）
研究に関わる資源を最適化、集約化し、本学が強みを有する分野の研究力を強化

- <従前の取組>
- ◆ 従来の枠組みを超えた学際横断型研究を推進するために「研究センター再編計画」を策定[H28]
 - ◆ 再編計画に基づき学内の研究センターを4つの級に類型化し、5つのセンターを再編[H29]

【課題】（取組④に関連）
教員の戦略的配置を拡充・加速化し、大学の経営戦略に応じた組織改革・分野強化の取組を強化

- <従前の取組>
- ◆ 各部局へ配分したポイントの削減および拠出 [H28~R3]
 - ◆ 削減・拠出したポイントを活用し、「全学戦略ポイント」「戦略的分野拡充ポイント」を実施 [H28~]

本事業で実施した取組の内容、方法、達成状況など

【取組①】
本事業により研究のステージに応じた効果的な研究推進体制「研究循環システム」を構築し、研究全体の新陳代謝を活性化

- 本システムの評価により、ヒト、モノ、カネ、スペース等の研究資源を戦略的に配分
- 最上位の世界級研究拠点である2つのセンターに対して、国際的な教育研究環境を強化するための更なる重点支援を実施

【取組④】
従前からの取組に加え、新規のポイントを新設するとともに、本事業により戦略的分野拡充ポイントの配分を加速

- 全学戦略ポイント：全学的な施策（若手・女性・外国人教員の採用促進等）を対象
- 戦略的分野拡充ポイント：新たな研究分野の開拓等を対象
- 循環型戦略管理ポイント：若手教員の採用促進・研究力強化を対象（配分期間を最長2年間に限定し、人件費の増加を抑制）

本事業実施後の大学ガバナンスの変化など

- 各研究センターの級の入替・廃止を含む緊張感ある評価体制により、全学的な研究資源の戦略的な配分が可能となり、本学全体の研究が活性化された。
- 全学的な戦略に基づき研究分野が強化されたほか、部局独自の人事においても、戦略的な教員人事が促進された。

大学改革の成果

研究資源の戦略的配分および重点支援の体制構築

全学的な戦略的人事の促進